

みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョンの取組状況について

平成 28 年度からスタートした「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」が今年度、計画中間年度であることから、中間評価を行ったので、その内容を報告するもの。

また、「今後実施を検討する事業」として位置付けていた事業の検討状況について、合わせて報告するもの。

1 中間評価について

(1) 戦略 1～3 の中間評価

【指標の推移状況】

「◎」 目標値に達している。

「○」 順調に推移している。

「△」 停滞している。

「×」 後退している。

「－」 取組後の数値を把握できない。

【戦略：1 圏域全体の経済成長のけん引】

成果指標名		計画策定時値	指標の推移				目標値 (平成 32 年度)	指標の 推移状況	出典
農林業圏域内 総生産額	↑	3,589 千万円 (平成 24 年度)	3,478 千万円 (平成 25 年度)	3,322 千万円 (平成 26 年度)	3,618 千万円 (平成 27 年度)	3,768 千万円	-	県政策地域部「市 町村民経済計算」	
製造品出荷額 等	↑	26,871 千万円 (平成 25 年度)	28,253 千万円 (平成 26 年度)	32,074 千万円 (平成 28 年度)	—	28,215 千万円	◎	経済産業省「工業 統計調査」	
第三次産業の 年間売上額	↑	251,457 千万円 (平成 24 年度)	346,389 千万円 (平成 28 年度)	—	—	264,030 千万円	◎	経済産業省「経済 センサス」	
圏域内観光客 入込数	↑	999 万人回 (平成 26 年)	1,014 万人回 (平成 27 年)	940 万人回 (平成 28 年)	950 万人回 (平成 29 年)	1,049 万人回	△	県政策地域部「岩 手県観光統計概要」	

※ 成果指標名横の矢印について、↑：計画策定時から数値をあげていくことを目指すもの。→：計画策定時の数値を維持していくことを目指すもの。

○指標の推移状況の要因

- ・「農林業圏域内総生産額」は、25年度、26年度と減少傾向にあったが、27年度に前年比9%増となっている。市町村別で見ると、盛岡市、岩手町、矢巾町が前年比で10%を超える伸びとなっている。県全体の農業産出額を部門ごとに見ると、米は平成26年に取引価格の低下により減少し、その後、需要に応じた生産の進展等から米の取引価格は上昇したが、生産量の減少等によりほぼ横ばいで推移している。一方、畜産部門では、乳価や子牛価格の高騰や鶏卵高値により上昇傾向で推移している。
- ・「製造品出荷額等」は、増加で推移し、目標値に達している。特に、盛岡市、八幡平市、滝沢市、矢巾町での増加が顕著である。分類別では、「食料品製造業」や「金属製品製造業」が伸びている。
- ・「第三次産業の年間売上額」は、28年度は24年度と比較して、約95,000千万円増加している。特に盛岡市の「医療、福祉」や「卸売業、小売業」、紫波町の「卸売業、小売業」、矢巾町の「学術研究、専門・技術サービス業」が増加している。
- ・「圏域内観光客入込数」は、26年と29年を比較すると広域8市町全体では、7.5%減少している。市町村別では、盛岡市、滝沢市、葛巻町、岩手町で増加している一方、八幡平市、雫石町、紫波町、矢巾町では減少している。

【戦略：2 高次の都市機能の集積・強化】

成果指標名		計画策定時値	指標の推移			目標値 (平成32年度)	指標の 推移状況	出典
広域バス路線数/ 圏域内のJR線及 びIGRいわて銀河 鉄道線各駅の乗 降客数の合計	→ / ↑	93路線/ 54,146人 (平成26年度)	93路線/ 53,887人 (平成27年度)	90路線/ 53,945人 (平成28年度)	89路線/ 54,738人 (平成29年度)	93路線/ 57,000人	△	盛岡市/ 東日本旅客鉄道株 式会社HP IGRいわて銀河鉄 道株式会社HP

○指標の推移状況の要因

- ・広域バス路線数は、28年度以降、路線の統廃合などにより微減している。
- ・鉄道の乗降客数は、JR線及びIGRいわて銀河鉄道線ともに横ばい傾向である。

【戦略：3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上】

成果指標名		計画策定時値	指標の推移			目標値 (平成32年度)	指標の 推移状況	出典
圏域内就業者数	↑	231,055人 (平成22年度)	235,895人 (平成27年度)	—	—	243,000人	—	総務省「国勢調査」
大学卒業生の 県内就職率	↑	45% (平成26年度)	45% (平成27年度)	45% (平成28年度)	43% (平成29年度)	55%	×	岩手大学ほか「地(知) の拠点大学による地 方創生推進事業」
戦略3に係る 連携事業数 (都市圏ビジョ ンの実施事業数)	↑	24事業 (平成28年度)	24事業 (平成29年度)	26事業 (平成30年度)	—	30事業	○	盛岡市

○指標の推移状況の要因

- ・「圏域内就業者数」は、22年度と27年度の国勢調査結果を比較すると、盛岡市、滝沢市、紫波町、矢巾町は増加しているものの、八幡平市、雫石町、葛巻町、岩手町は減少している。
- ・「大学卒業生の県内就職率」は、横ばいで推移していたものの、29年度は2%減少している。ふるさといわて創造協議会事務局では、大学生の多くが、県内企業をほとんど知らない状況にあるほか、首都圏大手企業をはじめとする県外企業が旺盛な採用活動を展開しているのに対して、県内企業の採用活動は依然として出遅れている傾向にあるため、結果として首都圏企業を中心とする県外企業に学生が流れてしまったものと分析している。
- ・「戦略3に係る連携事業数（都市圏ビジョンの実施事業数）」は、「日本遺産認定推進事業」及び「特別天然記念物ニホンカモシカ滅失処理業務」が実施を断念したが、30年度から新たに4事業（「U I J ターン就職支援事業」、「盛岡広域定住促進事業」、「地域おこし協力隊活動支援事業」及び「電子入札等基盤整備事業」）を位置付け、広域での取組を実施している。

(2) 各事業の中間評価

各事業のこれまでの取組の中間評価は以下のとおりである。なお、各事業の評価内容については、「資料1-2」のとおりである。

戦略名	指標の推移状況			
	◎：目標値に達している。	○：順調に推移している。	△：停滞している。	×：後退している。
圏域全体の経済成長のけん引 (19事業)	8	2	6	3
高次都市機能の集積強化 (1事業)		1		
圏域全体の生活関連サービスの向上 (31事業)	7	15	7	2
全体 (51事業)	15	18	13	5

2 みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業の事業費について

都市圏ビジョンに位置付けている事業の平成29年度の実績額の一覧は「資料1-3」のとおり。

3 「今後検討する事業」の検討状況について

都市圏ビジョンには「今後検討する事業」を21事業位置づけているが、そのうち、2事業（UIJターン就職支援事業、盛岡広域定住促進事業）については、30年度から「実施を計画する事業」に位置づけ、実施をしている。

その他の事業については、引き続き、広域8市町で事業化に向けた検討を進めており、今年度末までにすべての事業の実施の可否を判断する。

なお、各事業の平成29年度の検討状況及び30年度の検討計画については、「資料1-4」のとおりである。